



「言葉」から感じること・2

校長 高橋 浩平

6年生が小学校最後の移動教室、弓ヶ浜移動教室を終えました。今年は、杉四、杉八とも最後の移動教室、そして来年から一緒になるということで、杉四・杉八が一緒になった行動班で行動をしました。クラフトづくりやシャボテン公園の見学等で、お互いに声を掛け合う場面も多く、まさに合同移動教室でした。

さて、1年生の国語の教科書に「はなの みち」という作品があります。

くまさんが、ふくろを みつけました。「おや、なにかな。いっぱい はいっている。」

くまさんが、ともだちの りすさんに、ききに いきました。

くまさんが、ふくろを あけました。なにも ありません。「しまった。あなが あいて いた。」

あたたかい かぜが ふきはじめました。

ながい ながい、はなの いっぽんみちが できました。

図

左の絵はまさにくまさんが「しまった。あなが あいて いた。」の場面です。文章にはありませんが、この時にりすさんはなんといつてくまさんに声をかけたでしょう。

「ドンマイ」とか「大丈夫、大丈夫」、「気にしないでいいよ」などとりすさんはいったのではないのでしょうか。りすさんの表情からは、そうした思いが見て取れます。次のページには春になり、「ながい ながい、はなの いっぽんみち」が描かれています。

ところで、日常でこうした場面、「しまった あなが あいていた」と言われたときに、みんなどんな声掛けをしているのでしょうか。「何やってんだよー」「穴があいていたのに気づかなかったのかよー」などどつい言っているのではないのでしょうか。

前回、乱暴な言葉、強い口調の言葉が気になる、そして大人も言葉に気を付けることが必要という話をしました。

所沢で中学生が友人を包丁で刺して殺してしまう、という悲惨な事件も起きました。人の失敗を温かく見守る、「りすさん」のような気持ちや心持ちでいたら、トラブルはぐんと減るような気がします。いじめアンケートの結果を見ても、「いやなことをいわれた」というケースが多いです。大人も子供も、もう一度自分が発している「言葉」について考えたいものです。

夏休みに入ります。個人面談、よろしくお願いします。8月28日(水)が2学期始業式になります。実りある夏休みになることを祈っています。